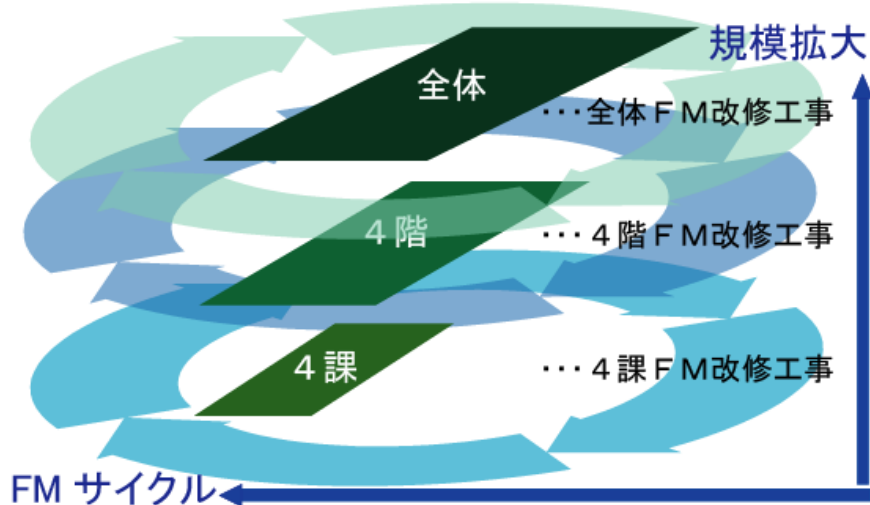


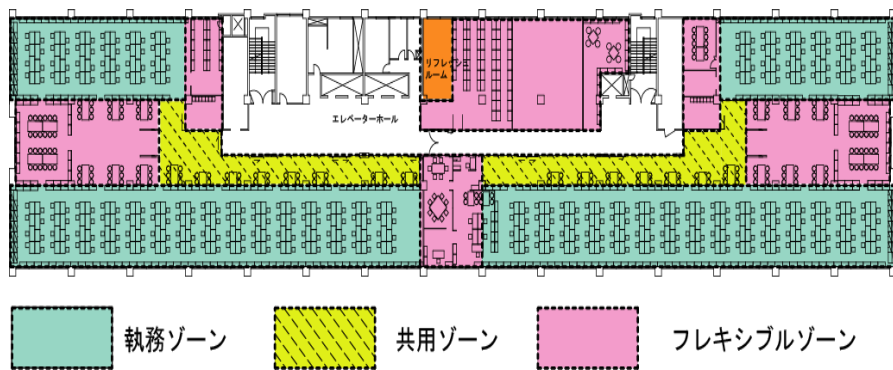
○研究の背景・目的

本研究では、地方公共団体が置かれている現状と中でも、保有施設の現状及び庁舎改修の必要性から本研究の目的を、改修直後に不具合の少ない効率的な工事手法、及び改修後のオフィス利用の変化について次の改修計画に反映する方法を明らかにすることで、今後の地方自治体オフィスの改修計画への提案を行うことを目的とした。

◇三重県庁FM改修モデルにおける3段階プロセス

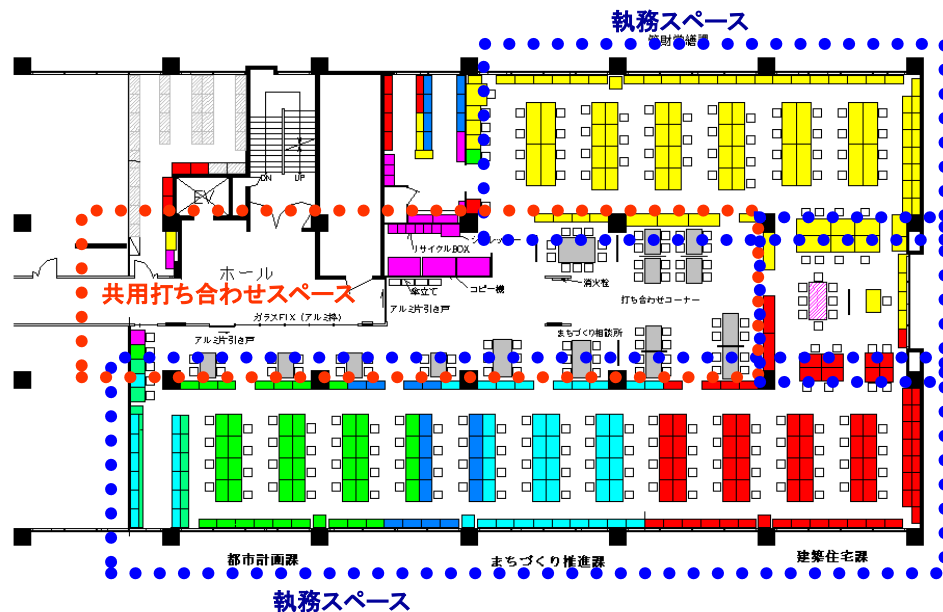


◇4階フロア全体への展開



◇4階東側4課のモデル的オフィス改修

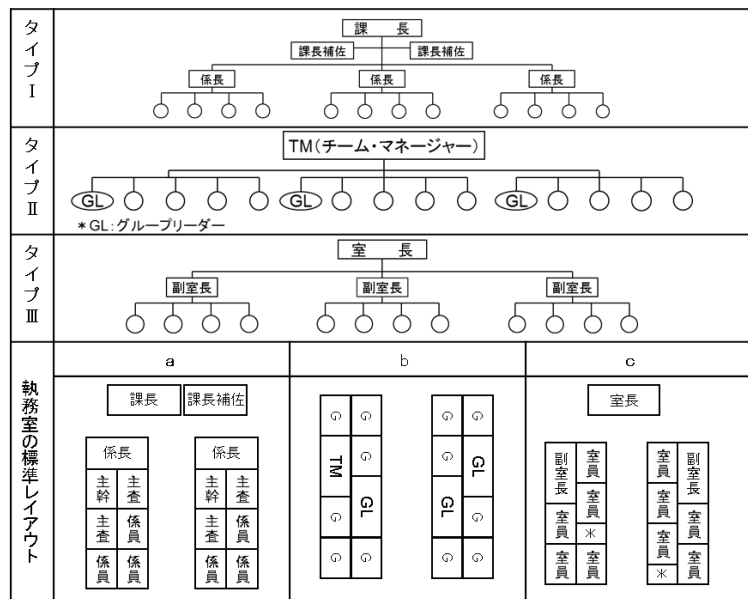
三重県庁本庁舎のオフィス改修では、小規模から大規模へ3段階のプロセスで改修工事を規模拡大をして実施した。



多段階プロセスによるオフィス改修工事の有効性について

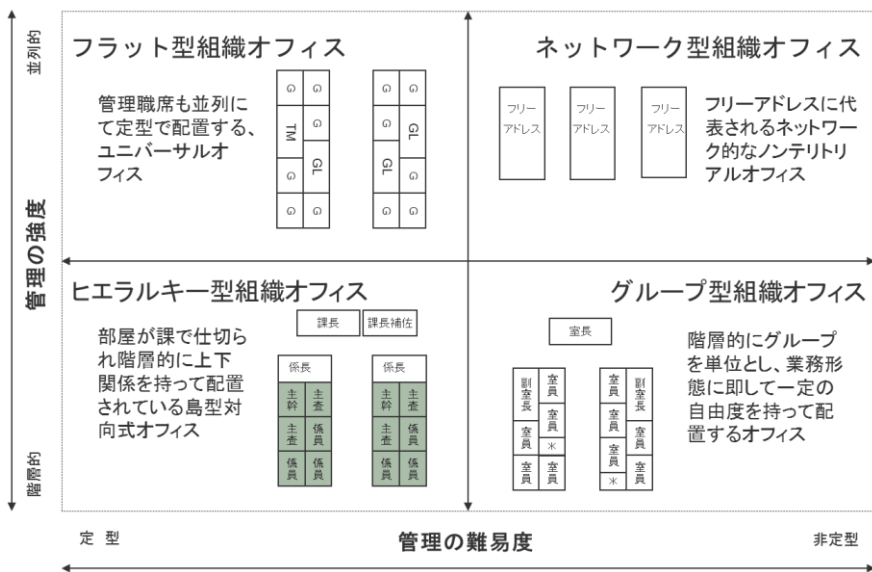
- (1) 継続して使用するためのファシリティマネジメントの視点
  - ・PDCAサイクル3段階プロセスにおける改修工事は、前段階終了時の要改善ポイントは、次段階においてほぼ解消可能。
- (2) 改修工事における想定外の問題の予防
  - ・前段階での検証結果が不適当な場合、結果を次段階にフィードバック可能。
- (3) 多様な要素への対応
  - ・オフィス改修において、執務環境の改善や組織構造の変化等の外的要因だけの対応ではなく、そこで実際に働く職員の満足度という対立する要素を調整し、最適解を求める改修を行う場合においては、多段階プロセスを経た方が、修正を加えることができる点で効率的である。

## ◆組織構造の変化

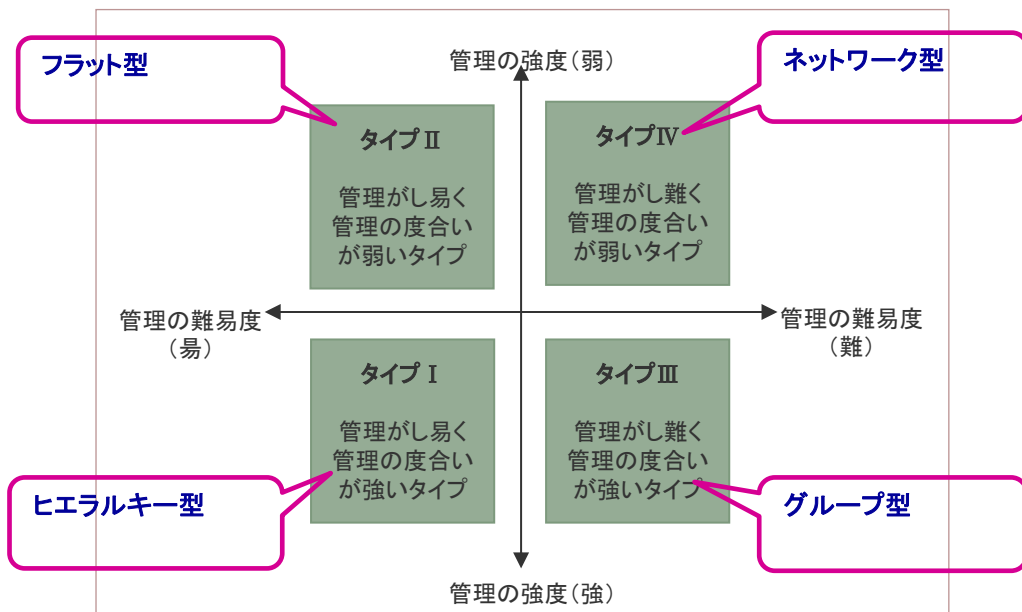


## 組織構造とオフィスの対応について

組織構造の変化から地方自治体の組織構造を4タイプに分類し、それぞれの組織構造に対応したオフィスについて考察した。

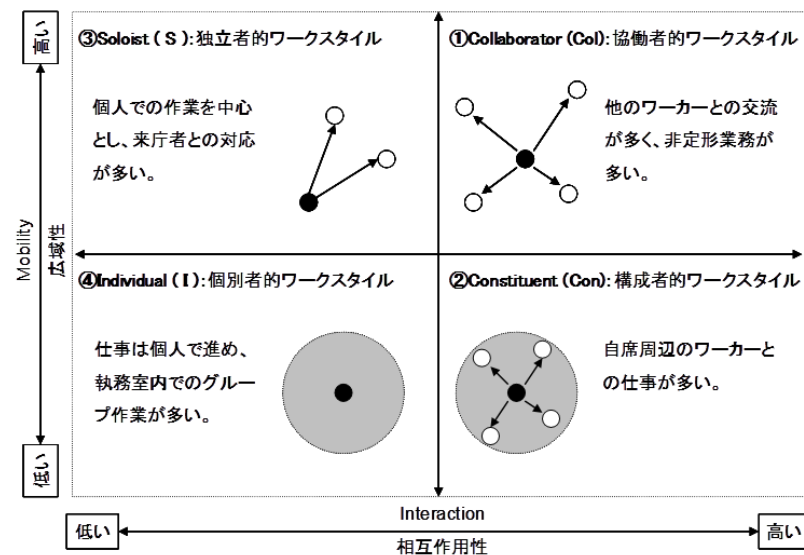


## ◆組織構造のタイプ



## 地方自治体職員のワークスタイルの類型化。

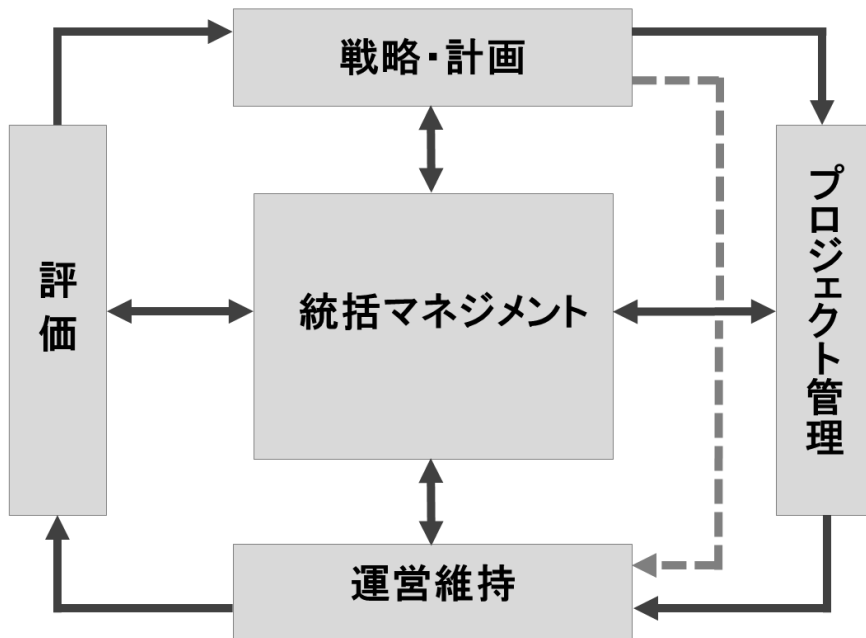
主成分分析による、広域性(第一主成分)、相互作用性(第二主成分)によるワークから、ワークスタイルを次の4類型化した。



## ワークスタイルのオフィス計画への反映。

ワークスタイルの4分類についてオフィスの平面計画への適用を以下のとおり考察した。

- 1)(Col)や(Con)に分類される相互作用性の高いワーカー同士の席を離すことで、広範囲でのコミュニケーションが、期待できる計画となる。
- 2)(Col)、(S)に分類される広域性の高い職員については、各室の周辺部や共用ミーティングスペース近くに配置することで広域的業務に効率的に対応できる。
- 3)(I)に分類される相互作用性と広域性共に低いワーカーは、個人で業務に集中できるように、室の内側に配置することで業務に効率的に対応できる。



PDCAを加えて建物のライフサイクルで考える。

## ◇地方自治体オフィスの改修計画に関する研究 まとめ ◇

1. 多段階プロセスの改修工事
2. オフィスの組織構造
3. オフィスのワークスタイル



- (1) ライフサイクルから見た改修計画
- (2) 多段階プロセスによる改修工事
- (3) 可能性を保障した改修計画

○建物のライフサイクルで考え、できるだけDを少なくする必要がある。

